令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	新潟県	学校名	柏崎市立南中学校

人権課題	子供 性的指向、性自認	対象学年・取り扱った教科等	全校・道徳	時数等	６時間

目標・人権教育のねらい	・差別や偏見をなくそうとする意欲・態度・実践力の向上 ・一人一人の個性と多様性を認め合い、差別やいじめを許さない集団づくり ・「自分事」として差別や偏見を見抜くための正しい知識の定着 ・教職員の人権感覚の問い直しと学び直し
実施した内容	・全校集会を起点に、教室で深める人権学習に取り組んだ。全校集会での校長講話を起点にし、各学級でさらに人権について深く考え議論する授業を行った。 例）テーマ「人権を守ることの大切さ」 STEP①全校集会での校長講話　➡　STEP②各学級での道徳授業 ・いじめ見逃しゼロ強調月間（６月・１０月）に小・中学校が連携して「いじめ見逃しゼロスクール集会」に取り組んだ。 ・幸せに生きること（Well-Being）と様々な人権課題を関連付けて考える機会を設けた。「性的指向、性自認」など、今日的な人権課題から人権を多面的に学んだ。
工夫した点	（指導上の工夫） ・いじめ見逃しゼロスクール集会の２回目（１０月）は、いじめに関するアンケート結果をもとに、いじめ防止のための具体的な行動について考えられるよう、内容を工夫して取り組んだ。 （地域や関係機関との連携） ・中学校区の新道小学校の教職員と連携し、児童生徒が自治的な活動として展開できるよう、指導・支援した。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・児童生徒の自治的な活動によって自分事として取り組めるよう生徒会活動との関連を図った。風紀委員会が中心となっていじめに関するアンケートを作成し運営に生かした。

事業成果

１　生徒による学校評価（７月、１２月に実施）

（質問項目の一部）

・他の人が嫌がることを「言わない」「しない」など、いじめを許さない行動をとった。
（７月）　９２％ →（１２月）　９２％

・どんな理由があってもいじめはよくない。
（７月）　９２％ →（１２月）　９６％

２　質問紙調査（６月、１月に実施）

◆いじめを見かけたら、あなたはどうしますか？

		①すぐ止める助ける	②状況を見て考える	③身近な大人や先生に相談する	④他の人にまかせる	⑤何もしない（できない）	合計
１年生	６月	1	１１	１４	0	0	２６
	11月	8	9	１１	0	0	２８
２年生	６月	4	7	１１	0	0	２２
	11月	8	9	8	0	1	２５
３年生	６月	0	6	１６	0	0	２２
	11月	7	5	１３	0	0	２５
合計	６月	5	２４	４１	0	0	７０
	11月	２３	２３	３２	0	0	７８
%	６月	７．１	３４．３	５８．６	0	0	１００
	11月	２９．５	２９．５	４１．０	0	0	１００

いじめが人権侵害であり、許されるものではないということを十分に理解している。しかし、具体的にどのような行動や行為がいじめにあたるかという理解や判断が十分でないため、実生活ではいじめが起きてしまうという課題もある。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

都道府県・指定都市名	新潟県	学校名	柏崎市立南中学校

人権課題	同和問題・インターネットによる人権侵害	対象学年・取り扱った教科等	中学３年生・道徳（人権教育、同和教育）	時数等	７時間

目標・人権教育のねらい	・差別や偏見をなくそうとする意欲・態度・実践力の向上 ・一人一人の個性と多様性を認め合い、差別やいじめを許さない集団づくり ・「自分事」として差別や偏見を見抜くための正しい知識の定着 ・教職員の人権感覚の問い直しと学び直し
実施した内容	・人権教育、同和教育の副読本「生きるⅣ」をもとに部落差別の歴史的背景や部落差別問題の現状を理解する。被差別部落の情報がインターネット上で拡散されている現状から、今日的な人権問題であることを理解する。（３時間） ・「人権講演会」において、被差別当事者の講話を聴き、部落差別が現在も存在することや結婚差別の現実を理解する。（２時間） ・これまでの学習や「人権講演会」での学びから、自分にできることを考える。（２時間）
工夫した点	（指導上の工夫） ・社会科公民と人権教育、同和教育を関連付け、部落差別の歴史的背景や日本国憲法における基本的人権等を学ぶことによって、部落差別の解消について深く考えることができるようにする。 （地域や関係機関との連携） ・県内の人権団体である「部落解放同盟新潟県連合会」と連携することによって、被差別当事者の講話から差別の現実に深く学ぶことができるようにする。

令和７年度　人権教育研究推進事業　＜人権教育研究指定校事業＞

他教科との関連	・同和問題学習の前に、社会科において「日本国憲法における基本的人権」や「部落差別解消推進法」、被差別部落に関する歴史的背景について学習し、「人権の大切さ」を考えた。

事業成果

１　生徒のワークシートの記述（１２月　３年生　部落問題学習「結婚差別」）

生徒のワークシートの記述内容の分類

	資料名または活動名	人権課題や部落差別に関する知識の理解	受容、共感	様々な視点から差別を見つめ直している	人権を守ろうという行動の判断と意識の醸成	心の弱さへの気づき	行動意思	生徒数
１回目	峠	９名	22名	７名	９名	２名	２名	22名
２回目	峠	４名	20名	７名	７名	２名	４名	24名
３回目	ハートで挑戦！	0名	21名	11名	21名	13名	９名	21名
４回目	人権講演会	18名	23名	16名	23名	13名	21名	23名

同和問題学習において、時間を重ねるごとに、人権を守ろうとする意識が高くなっていることが分かる。また、行動意思は、被差別当事者からの講話によって大きく増加している。

２　質問紙調査（６月、１月に実施）

知識的側面　：同和問題がどのような人権侵害であるかを知っている。
（６月）４５．８％　→　（２月）８７．５％

価値的・態度的側面：差別や人権侵害の解消のため行動したいと思う。
（６月）５０．０％　→　（２月）６６．７％

技能的側面　：同和問題解消のために、自分にできることがあると思う。
（６月）４５．８％　→　（２月）６６．７％

同和問題の学習に取り組んだため、知識的側面における数値は上昇が見られた。価値的・態度的側面や技能的側面においては、数値の上昇は見られたものの、人権課題を解決しようとする具体的な行動にまで及ばなかった。